

学校評価について

本校は、より質の高い学校運営を目指して学校業務改善、学校運営、教育活動の向上を図るために学校評価を実施しています。学校評価の結果に基づき、選ばれる魅力ある神戸看護専門学校を作り学生の皆さんに満足していただけるよう改善を図ります。

「看護師養成所の自己点検・自己評価指針」を基に本校の自己点検・自己評価を実施していますが、令和2年度に評価のカテゴリー及び評価内容の検討を行い、評価のカテゴリーの整理、評価内容を見直し、9領域、50評価項目に整理を行い、4段階評価（4：よく当てはまる 3：大体当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない）にて教職員による自己評価を実施しています。

評価項目

- I. 教育理念・教育目的・教育目標（3項目）
- II. 学校運営・経営管理（11項目）
- III. 教育課程・教育活動（12項目）
- IV. 学生支援（5項目）
- V. 教育環境（4項目）
- VI. 入学・学生確保（5項目）
- VII. 卒業・就職・進学（3項目）
- VIII. 地域貢献・国際交流（2項目）
- IX. 研究・職員の育成（5項目）



<自己評価結果>

評価項目	結果
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.2
II. 学校運営・経営管理	3.0
III. 教育課程・教育活動	3.0
IV. 学生支援	3.1
V. 教育環境	3.1
VI. 入学・学生確保	3.0
VII. 卒業・就職・進学	3.1
VIII. 地域貢献・国際交流	2.8
IX. 研究・職員の育成	2.6
平均評価点数	3.0

<評価内容>

令和3年度においては、令和2年度と比べ全体的にやや低い評点となった。令和2年度と同様で新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年とは違う学習環境・教育環境になったことにより、低い評価点になったと考える。しかし、学校設備として天井吊り下げ式のプロジェクターの交換や新設を行うなど計画的に実施し、学生の学習環境を整備することができた。「VIII. 地域貢献・国際交流」の項目である地域貢献に関して、コロナ禍により本校が取り組んでいる「あじさい祭」の開催を中止するなどにより地域との交流を図ることができなかったことにより、昨年同様に評価点が低い結果と考える。「IX. 研究・職員の育成」に関しては、オンラインによる研修会への参加を計画したがコロナ禍における対応策が優先されたことにより十分な活動ができなかったことにより低い評点となったと考える。次年度の課題として取り組んでいく。

次年度、コロナ禍の状況が分からないが、状況に合わせ学生支援・教育活動を質の担保を図りつつ実施していく必要があると考える。

「VI. 入学・学生確保」に関しては、年々受験者数が減少しており、学生確保に向け広報活動のさらなる充実や魅力ある学校づくりに努力していく必要があると考える。ホームページで入学式・卒業式・ビブリオバトルの状況などコロナ禍においても実施できた行事について写真とともに公開するなど行った。また、令和5年度の学生募集に関し学校パンフレットを刷新、季刊誌である「あじさい」に新カリキュラムに関する内容を記載する予定で計画を進めるなど広報活動に力を入れた。

学生の生活満足度調査にて、コロナ禍における学校の対応について調査したところ、緊急事態宣言中不安な中、C-Learningの活用で毎日の健康チェックに関するやり取りや不安などについて対応してもらったことが心強かったという意見が多く、学校の対応に対し良い結果が得られた。また、臨地実習が中止となり学内実習に変更せざるを得ない状況において

臨床と ZOOM を活用しての実習を実施するなど工夫がされており不安軽減につながった
とという意見も多くあり、コロナ禍における ICT 活用を今後も状況に合わせて取り入れてい
く必要があると考える。授業に関してはコロナ禍であったが、感染防止対策を十分にとった
うえで対面授業を継続した。学生の一部からはオンラインを希望する声もあったが授業効
果を考え対面授業を継続。クラスターを生じることなく経過することができた。また、国家
試験対策や学生支援として C-Learning 活用による学生個人へのアプローチをしたことに対
しても学生から高い評価を得、補習講義等実施により昨年度より高い合格率となった。

2. 学校関係者評価

<実施日> 令和4年5月26日(木) 16:00~17:00

<場所> 本校8F 第1会議室

<参加者> 神戸市民間病院協会 理事3名(会長1名・副会長2名)
学校内関係者 3名(学校長・顧問・事務部長)

<方法>

学校評価結果について学校より説明後、評価内容及び結果について、意見及び質疑を行った。

特に評価点の低い内容の原因となることについて検討し、意見交換を行った。

<質疑・検討内容>

学校関係者から、コロナ禍により臨地実習に行けなかったことでの学生の学習状況への影響の質問があり、学校側から現状の報告と課題について提示し検討を行った。今後の実習の状況にあわせ次年度も対応していく必要がある。

令和2年度の看護師国家試験の合格率が例年に比べ低かったが、令和3年度は98.7%と合格率がよい結果であった。国家試験対策をさらに充実させ次年度は全員合格を目指していく。

評価点の低い項目についての検討内容は、今回コロナ禍により大きな影響を受けたことにより、評価点が低くなったのではないかという学校が自己評価した内容と同様であった。感染状況の終息した時点で計画して進めていくとよい。病院実習があることを踏まえ、感染拡大させないことを優先すべきである。

民間病院以外への就職先について質問があり、公的病院に若干名就職があったことその事情について説明した。就職先が学校設置主体である民間病院ではないが、卒後のフォローできるようにしていく。

<学校関係者による評価結果>

コロナ禍での感染防止対策等を含め学校運営はまあまあできていたのではないかと評価点の低い内容については、今回コロナ禍による影響も大きいと考えられるが、次年度においても終息の見込みが分からないため、同様の結果とならないようにできる範囲で学校運営を図っていく必要がある。特に今後も学生支援に重点を置き学習環境及び教育環境を整えていく必要がある。学校教材等の整備については、予算の関係もあるが、計画とおり順次整えていくよう努力してほしい。

コロナ禍においても教育の質の担保を図りつつ取り組んでいく必要がある。看護師国

家試験に関して、次年度は合格率を上げるよう学校全体で計画的に取り組んでいくようにしてほしい。

コロナ禍での感染対策、学生指導を十分に行い学校でのクラスターを発生させないよう今後も取り組みを継続してほしい。

県内民間病院への就職率については 91.8%と概ねよいが、今後も引き続き民間病院への就職率を向上させるよう取り組んでほしい。